

ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年6月26日 No.10]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033
URL http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html Eメール youth_against_nukes@yahoo.co.jp

世界青年のつどいinバンクーバー大成功!

「バスを走らせる会」は昨年の世界大会後、毎月活動を続けています。

原爆・核実験被害実相さく



カナダ・バンクーバー 6月24日16時(現地時間)ブリティッシュコロンビア大学の学生自治館外の木陰で「核兵器なくそう・世界青年のつどいinバンクーバー」が行われました。つどいには日本の青年たちをはじめ、アメリカ、カナダ、ドイツ、フランス、フィンランド、アジア系の留学生などを含むのべ70人の青年が集まりました。

被爆者の谷口稜暉(すみてる)さん(長崎)、吉岡幸雄さん(広島)が被爆体験を、アバッカ・マディソンさん(マーシャル)が核実験被害について、参加した青年に話してくれました。被爆の実相を伝えるために、谷口さんと吉岡さんは自身のケロイドを参加者に見せてくれました。

昨年のつどい後のフランスと日本の運動について報告され、参加者が自分たちの活動を交流しました。最後は、東京の形岡七恵さんがアメージンググレイスにのせて、「人間をかえせ」を熱唱しま

した。(世界青年のつどい事務局長:布施恵輔)

500筆の署名集め20人で参加

三重 昨年15人の青年が参加して原水爆禁止世界大会に参加し、原水爆禁止の運動を継続させようと結成された「バスを走らせる会」



は、毎月継続して会議を行い、駅前での署名行動にも取り組む中で今年は20人をバスで参加させようと目標をたてています。



署名目標は世界大会までに500筆。現在370筆集まっています。“勢いがなかったところでもやればできる”、そう信じて中心メンバーは頑張ってきました。駅前での署名も2人の時も3人の時も絶対

に欠かしませんでした。継続することと気持ちを訴えることで1人また1人と一生懸命になってくれるメンバーの姿がありました。7月23日には駅前で原爆パネルやギターを使った歌声や折鶴・署名の訴えをする予定です。(今井杏菜)